

村田仁代

(大分大)

目的 現在、服飾研究のなかで若者を中心とするストリート・ファッションに関する問題は重要視せざるをえない。このことはその動向がデザイナー界に影響を与え、従来のモードに対してストリート系と呼ぶ新たなジャンルが設けられるようになったことで明らかである。そこで本発表では着装形態と社会的価値基準との関わりを通じて本質を論及する。

方法 着装状況を掲載する若者層のファッション雑誌、流行と直接に関わる業界誌、そしてその動向に批評を加える一般週刊・月刊誌と新聞の記事をもとに分析をおこなう。

結果 ストリート・ファッションの着装形態を分析した結果、その構成要素を挙げれば、1. カジュアル性 2. 音楽・スポーツ系 3. 無性差 4. 非モード 5. コーディネート 6. ハンドメイド性 7. 娯楽性 8. 個性化等となる。これらの要素の多くはストリート・ファッションだけに見られるものではなく、現在の一般着装傾向にも当てはまるものが多いが、このファッションの特異性は従来の社会的価値基準や洗練された既存のエLEGANSを無視し、娯楽性と意外性に力点を置くことである。このように個性化を標榜することがストリート・ファッションの基本であるが、他人と差別化することを希求しながらも、また一方では同じようなファッション傾向を共有する仲間を求めていることは事実である。このようにコミュニケーションをはかり、孤独感を癒すためにストリート・ファッションが媒介となっていると言える。

従来見られなかったユニークな着装形態で若年層がアイデンティティーを表現することは今日の物質文化を第一義とする社会の風潮と軌を一にすることである。